

「お寺を中心としたスピリチュアルリゾート開発と 日越外交樹立 50 周年」

中川 良一

＜観光や芸能も堪能できる寺院開発＞

Xuan Truong (ソンチュン) 建設グループの社長グエン・ヴァン・チュオン氏(60歳)は、2000年代から自身の出身地である北部のニンビン省※1にチャンアン・バイディン寺院・リゾート(総投資額 17 兆ベトナムドン、約 952 億円)、ハナム省※2にタムチュック寺院・リゾート(総投資額 10 兆ドン、約 616 億円)を開発しています。

※1 ニンビン省：ハノイ以前、首都が置かれていたことがあり、歴史的建物が数多く残る。ベトナム文化発祥の地とも言われ、世界遺産都市となっている。

※2 ハナム省：日系企業誘致に積極的で、ワンストップ窓口「ジャパンデスク」をハノイサポーターが担っている。

チュオン氏の投資により開発された、539 ha の規模を持つチャンアン・バイディン寺院・リゾートはベトナム国内だけでなく、アジア諸国からも注目されています。バイディン寺はアジアで最多の仏像、東南アジア最大級の銅の仏像、ベトナムで最も重量のある鐘、ベトナム最多の阿羅漢(小乗仏教の悟りに達した仏様) 500 体が並んだ回廊などのある寺院として多くの記録を樹立しました。また、ハナム省にあるタムチュック寺は、陸のハロン湾とも呼ばれており、森と山々に囲まれた湖の真ん中にお寺があります。お寺まで船で行くことができ、お茶にお菓子やフルーツ付きのチケットもあり、壮大な景色を眺めながら、お寺まで行くことができます。現在、世界遺産の登録を目指しています。湖を含む 5,100ha もの敷地には、170 室の三ツ星ホテル、レストランや 1,000 人規模を収容できる会議室のある国際コンベンションセンターが建設されるなど、大規模な周辺開発を行っています。

＜2023 年 日越外交樹立 50 周年＞

1964 年 8 月 2 日、アメリカがベトナム戦争に参加し、本格的な全面戦争に突入、1973 年 1 月のパリ協定後、アメリカ軍が撤退、8 月 15 日の米議会の決議により、米軍の直接的関与は正式に終了しました。間髪をおかず、同年 9 月 21 日、日本とベトナムは外交関係を樹立し、政治や経済、文化、スポーツなど幅広い分野において、また、首脳から草の根レベルに至るまで、日越間の友好・協力関係は現在まで発展し続

けています。

今年は、日越外交樹立 50 周年に当たり、「手と手を取って 未来へ世界へ」をキャッチフレーズに、多くの記念事業が行われることになっています。

＜狂言とお囃子の夕べが開催＞

その記念行事の一つとして、日本から狂言師の小笠原由祠氏・弘晃氏とお囃子の演奏者を含め 12 名が来越し、5 月 14 日、ハナム省のタムチュック寺で狂言公演が予定されています。2 回公演で約 5,000 人の来場者が見込まれており、夜には盛大な花火大会も行われます。ベトナム北部には狂言に似た「チェオ」

という古典芸能があり、多くのベトナム人が楽しみにしています。本公演が成功し、両国のさらなる友好協力関係がますます深まることが期待されています。



【日越外交樹立 50 周年記念行事ポスター】



【過去・現在・未来を表現している黒銅製の仏像。
1 体約 200 トン】